

報道機関各位

(報道発表資料)
令和8年5月14日
北九州市保健所保健企画課
(担当:吉野、河崎)
電話:093-522-5721

麻しんの発生について

市内において、麻しん(5類感染症)の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

- 概要** 令和8年5月13日(水)、麻しんの届出があった。
- 患者情報** 若松区在住、30代、女性、予防接種歴不明、海外渡航歴なし
- 経過**
5月7日(木) 発熱(38度台)、咳、鼻汁、咽頭痛出現。
5月11日(月) A 医療機関を受診。結膜充血出現。発熱(39度台)あり。
5月12日(火) 全身に発疹出現。
5月13日(水) B 医療機関を紹介受診。
5月14日(木) 北九州市保健環境研究所にて遺伝子検査を実施。
遺伝子検査で麻しん陽性が判明。
- 現在の状況** 自宅療養中
- 感染原因** 不明
- 行政対応** 患者等に対する健康調査の実施と感染拡大防止の指導を実施。
調査の結果、患者が不特定多数の方と接触した可能性が確認された場合には、改めて施設等を公表します。

7 北九州市の麻しんの届出状況(単位:人)

(令和8年5月14日現在)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
発生届出数 (単位:人)	0	7	1	0	0	0	0	0	1※

(※本件を含む)

8 全国の麻しんの届出状況(単位:人)

(令和8年5月10日時点の速報値)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
発生届出数 (単位:人)	279	744	10	6	6	28	45	265	479

9 その他

- ・患者の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていた
たきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- ・本市においては、別添「《麻しんについて》、《注意！麻しん(はしか)感染拡大しています》」
について市民の皆様呼びかけています。報道各位におかれても、この内容の周知にご協
力いただきますようお願いいたします。

10 麻しんについて

別添 1、別添2参照

《麻しん(はしか)について》

➤ 麻しんとは

麻しん(はしか)は、麻しんウイルスによる感染症です。感染力がきわめて強く、麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～18人の人が感染すると言われております(インフルエンザでは1～2人)。ほぼ100%の人に症状が現れますが、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われております。

➤ 症状

麻しんウイルスに感染して10～12日後に、発熱や咳などの症状が現れます。38℃前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感、上気道炎症状(咳、鼻水、くしゃみなど)、結膜炎症状(結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど)が現れて次第に強くなります。

発疹が現れる1～2日前ごろに口の中の粘膜に1mm程度の白い小さな斑点(コプリック斑)が出現します。コプリック斑は麻しんに特徴的な症状ですが、発疹出現後2日目を過ぎるころまでに消えてしまいます。

コプリック斑出現後、体温は一旦下がりますが、再び高熱が出るとともに、赤い発疹が出現し全身に広がります。発疹出現後3～4日で回復に向かい、合併症がない限り7～10日後には主症状は回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹ると重症になりやすく、体力などが戻るのに1か月くらいかかることも珍しくありません。

麻しんに伴って肺炎、中耳炎、脳炎などさまざまな合併症がみられることがあります。特に脳炎は、頻度は低い(1000人に1人)ものの死亡することがあり、注意が必要です。

※修飾麻しんについて

麻しん含有ワクチンを1回接種している場合など、麻しんに対する免疫が不十分である人が麻しんに感染し、軽症・非典型的な症状が出た場合を「修飾麻しん」と言います。発熱期間が短い、微熱、咳、鼻水、結膜炎などが少ないなど症状は通常麻しんより軽症で、感染力も典型的な麻しんと比較すると低いとされていますが、感染を広げる可能性はあります。

➤ 感染防止のポイント

麻しんは、空気感染を起こし感染力がきわめて強いことから、手洗いや一般的な(布・不織布などの)マスクのみでの予防は十分ではありませんが、予防接種(ワクチン接種)を2回行うことによって、95%以上の方が免疫を獲得し、予防することができます。

予防接種は、自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも有効です。

医療・教育関係者や、海外渡航を計画されている方は、麻しんの罹患歴や予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種を検討してください。

麻しんの予防接種歴がない方で、発熱、咳、鼻水、眼球結膜の充血等麻しんに特徴的な症状が現れた方は、事前に医療機関に電話で連絡し、指示に従って受診してください。

その際、症状出現日の10～12日前(感染したと推定される日)の行動(海外の流行地や人が多く集まる場所へ行ったかどうか等)について、医療機関にお伝えください。

注意!

感染力が極めて高い

麻疹(はしか)

感染拡大しています



症状

感染約10日後に発熱や咳などの風邪症状が現れ、2~3日熱が続いた後、**39度以上の高熱と発しん**が出現します。

感染経路

空気感染等によりヒトからヒトへの**感染力は非常に強い**です。発症日の1日前から解熱後3日間まで感染力があります。



皆様へのお願い

- ・麻疹を疑う**症状がある場合**、**外出を控え**、受診する際には**事前に医療機関に電話**し、なるべく**公共交通機関の利用を避けて**ください。
- ・麻疹の感染拡大防止のため、接触者等への**行政による調査にご協力**ください。
- ・お子様が**1歳または就学前1年間**にある場合、積極的に**早期の接種**をご検討ください。
- ・定期接種の**接種歴を確認**いただき、**2回のワクチン接種の検討***をお願いします。
※今回の流行の中心である10~40代の方は特にご検討ください。
- ・妊娠中に感染すると早産や流産のリスクがあるため、**妊娠前の接種を検討**ください。
- ・**免疫不全のある方**は、主治医の方と相談の上、**接種を検討**ください。
- ・**乳幼児**は、肺炎や脳炎を起こすリスクがあるため、**家族の接種歴を確認**ください。

詳しくは、厚生労働省WEBページをご覧ください

 **厚生労働省**

感染症対策課 2026年4月 作成

